

特定施設 サービス付高齢者向け住宅

中屋敷イストワール

〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町21-1

お問い合わせ ☎0739-33-7332

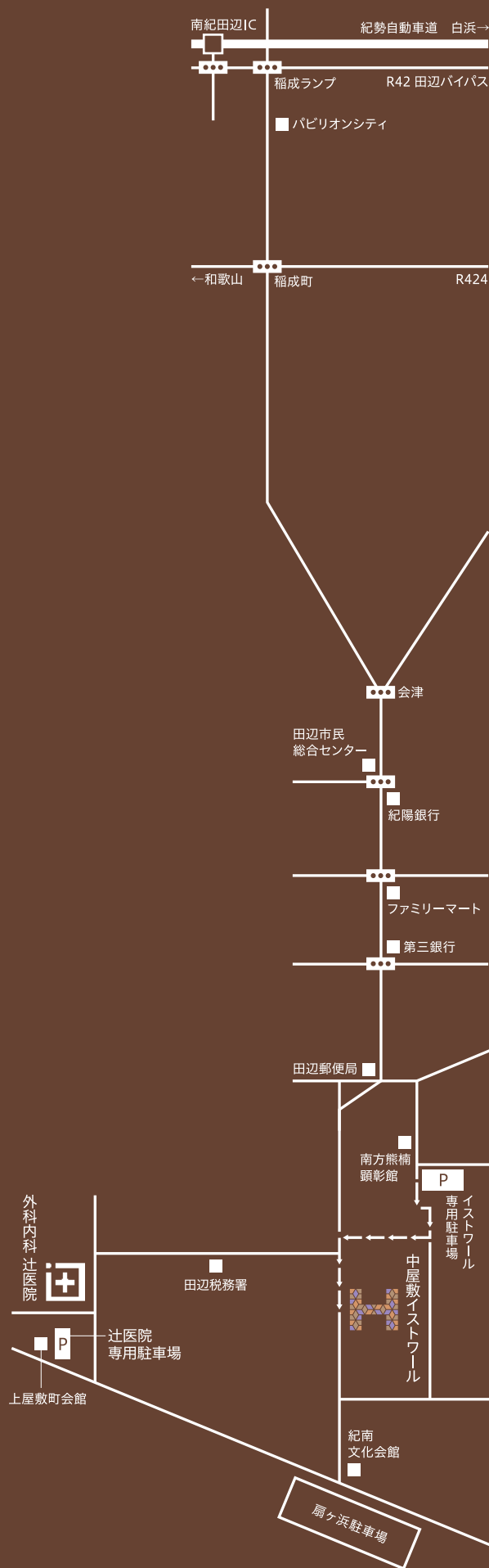
FAX:0739-33-7662

✉ nakayashiki@theia.ocn.ne.jp

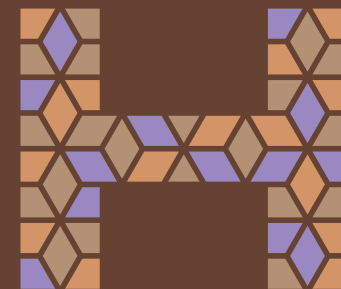
www.nakayashiki-histoire.jp

<運営> 医療法人  外科 内科 中屋敷 医院

<パンフレット制作> **LACAN** co.,ltd



特定施設 サービス付高齢者向け住宅



NAKAYASHIKI

HISTOIRE

中屋敷イストワール

www.nakayashiki-histoire.jp

人生はお祭りだ。一緒に過ごそう。

F. フェリーニの映画「8 1/2」より

住みなれた街で 余生を存分に楽しもう！

年齢を重ね介護が必要となり、それまでの当たり前の生活が保てなくなった時の辛さと悲しみは、ご本人にもご家族にとっても耐え難いものです。

幸せな余生を送りたい 幸せな時間を過ごしてほしい

そんなご本人とご家族の声をしっかりと受け止め、楽しく充実した毎日を過ごしてもらうため 精一杯のお手伝いをしたいというのが私達の想いです。

永年「有床診療所」で蓄積した入院・在宅医療の経験と英知を結集して、地域の皆様が安心して充実した生活が続けられるよう、私達がサポートいたします。

イストワールとはフランス語で、「歴史」「物語」を意味します。
老後の終の住処として、ここで暮らす利用者様とご家族の物語を
この場所で紡いでいただきたいという願いから名付けました。





(左)2代目院長 辻 啓次郎
(右)3代目院長 辻 興

撮影：荒井 拓雄

住み慣れた街で余生を過ごす、 この居心地の良さ。

医療法人 外科内科 辻医院
院長 辻 興

何を隠そう、町医者 of 私にも介護問題に頭を抱えています。幼少期を中屋敷町で過ごした父（医師）は、テコでも此処を離れません。「津波で死ぬかも？」と言っても、聴く耳を持ちません。人生の玄人は仰ります。「所縁の無い土地に、何を今更…」

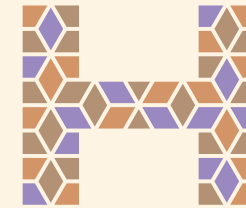
住み慣れた街は、居心地が良くて、友達もいて、癒されるのです。思い出の詰まった街を眺めながら、余生を過ごす。至極、当然の願いです。なのに、何故か街中には、理想の「終の棲家」が見つからない。願い叶わず、去っていく人々。本来なら、この住み慣れた街で天寿を全うさせてあげるべきではないのでしょうか？

町医者 of 私が、親の想いを真摯に受け止め、導き出した答え、それが「中屋敷イストワール」の旧市街地への開設です。街の中心部にある当施設のテラスからは、見慣れた田辺の街が一望出来ます。南方熊楠が晩年を過

ごした古い街並。夕暮れ時の美しい海岸線。何処からか、お祭りのお囃子も聴こえてきます。潮風香る、この居心地の良さ。当たり前の日常が続く事を、御高齢者は無意識に望んでいるのです。無論、「人生の玄人」に子供騙しは通用しません。有床診療所で蓄積した安全管理体制を軸に御高齢者にも満足頂けるオトナのカラクリを仕掛けました。街中で生まれ育った終活中の皆様、住み慣れた街で、余生を存分に楽しみませんか？

経営母体、「外科内科辻医院」は隣町（徒歩5分）、田辺市上屋敷町で1945年（昭和20年）に開業した入院のできる診療所（有床診療所）です。施設と連携し、入居者の健康をサポート致します。当院入院時・通院時には、入居者特典もございます（詳細はお尋ね下さい）。

ロゴデザインについて



NAKAYASHIKI

HISTOIRE

中屋敷イストワール

ロゴマークは、イストワールという終の住処である「家(HOUSE)」とHISTOIREの頭文字「H」の中に、日本古来の長寿吉兆の紋様「亀甲」を表現しました。わが国には古来より伝わり現代の生活の中に息づく日本特有の色彩感覚があり、日本文化の一面として大変価値のあるものです。その色彩は千百余色にも及んでいます。これらの日本の伝統色の中からその色が持つ意味合いも含めて、ロゴマークに使用したのが「幹色」「竜胆（りんどう）色」「胡桃（くるみ）色」の3色です。

みきいろ
幹色

木の幹の色からうまれた色で、強い生命力を意味します。木の中心となる部分であり、物事の本筋のことをいいます。

りんどういろ
竜胆色

りんどうの花のような青みがかった薄い紫は高貴な色であるとともに、花言葉は正義、誠実、あなたに寄り添うという意味があります。

くるみいろ
胡桃色

胡桃は子孫繁栄の意味を持ちます。また手のひらにくるみを握り込んで転がすと握力の鍛錬や老化防止の効用があるといわれています。



城下町 中屋敷の風情を生かしつつ 終の住処イストワールの建設を考えました。

江戸時代、浅野家の家老 浅野知近によって田辺城が築かれ、中屋敷はその城下町として経済、政治の中心地として栄えました。今もその名残をとどめる屋敷が存在し、独特の風情が印象的な街並です。その中でも、イストワールは造り酒屋の屋敷跡に建築しました。当初、歴史ある旧家屋を生かした設計を試みましたが、老朽化による安全面での問題から断念せざるを得ませんでした。しかし庭園にあった情緒ある灯籠や庭石、樹木等は、イストワールの庭園に移設し、井戸も庭園の散水に利用しております。

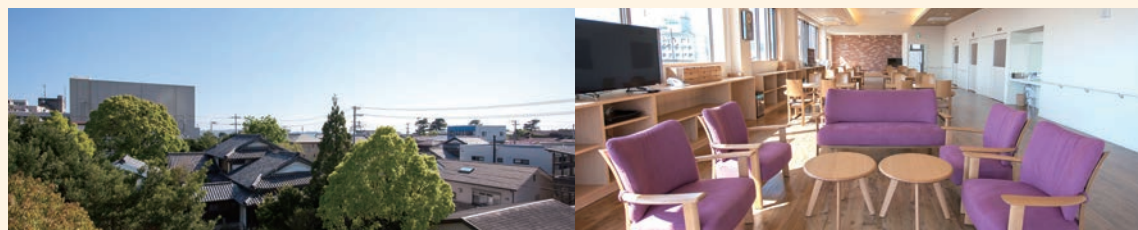


「人生の玄人」の皆様に捧げる

イストワールの仕掛

田辺初の介護保険サービス付き「特定施設」サ高住

「特定施設」とは、介護保険サービスのうち、特定施設入居者生活介護の指定を受けている施設のことです。生活の中で必要となる食事や入浴、排せつといった介護サービスを、一定の料金負担で受けることができます。入居後、介護度が上がっても介護度毎に定められた定額の自己負担額にて介護サービスが受けられます。足腰が不自由で寝たきりになってしまい、毎日のように介護が必要になった場合でも、自己負担額が定額という点は利用者様とご家族にとっても安心です。また、特定施設では施設内に介護スタッフが常駐しているので安心ですし、生活援助においても手厚いサービスを受けることができます。



立地へのこだわり

長年住み慣れた街で晩年まで過ごしていただきたい、街のイベントをいつものように楽しんでもらえたら、そんな想いから田辺市の文化と歴史の中心地である中屋敷に当施設を開設しました。

テーマごとのフロア

1階居室エリアはトラディショナルでシック、2階はカジュアルなカントリー調、3階のリビングダイニングはペントハウスをモチーフにし、木のぬくもりが感じられる飛騨家具でコーディネートしています。



辻医院の管理下で運営

施設から歩いて5分、24時間365日入院治療を提供する「外科内科 辻医院」がホームドクターです。日常の往診や訪問診療、訪問看護だけでなく病状増悪時の入院治療も対応可能です。また看取りも対応いたしますのでご家族様も安心です。

与薬カートシステム

誤薬・混入リスクを防止するために「与薬カートシステム」を導入しました。内服薬、点滴薬、注射薬は鍵付きのシャッター内で保管され、患者様毎の専用トレイで1週間分、正確に分類管理します。

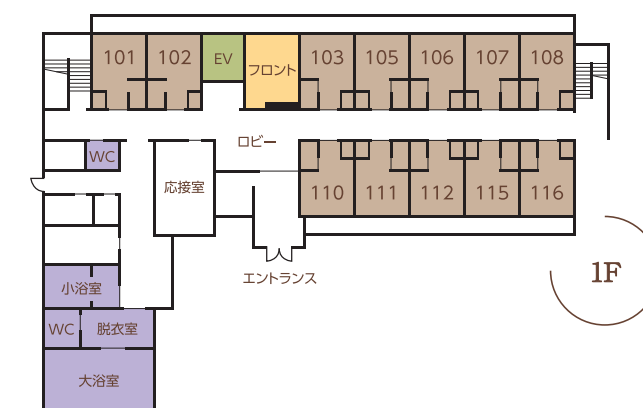
タブレット端末での介護記録システム

常に最新版に更新される介護記録ソフトを搭載したタブレットにより、全入居者様の健康管理を実施します。看護師が毎日、ベッドサイドで生体情報や食事状況、服薬情報などの管理を行い、医療機関受診時のデータ提供や、データ分析による安全管理体制の向上に役立っています。

最新の防犯システム

不審者の侵入防止と入居者様が誤って外出されないよう施設の入り口はICカードで管理します。敷地内、施設内には十数台の防犯カメラを設置、常時録画をして安全確保に重点をおいています。

1 階



庭 園

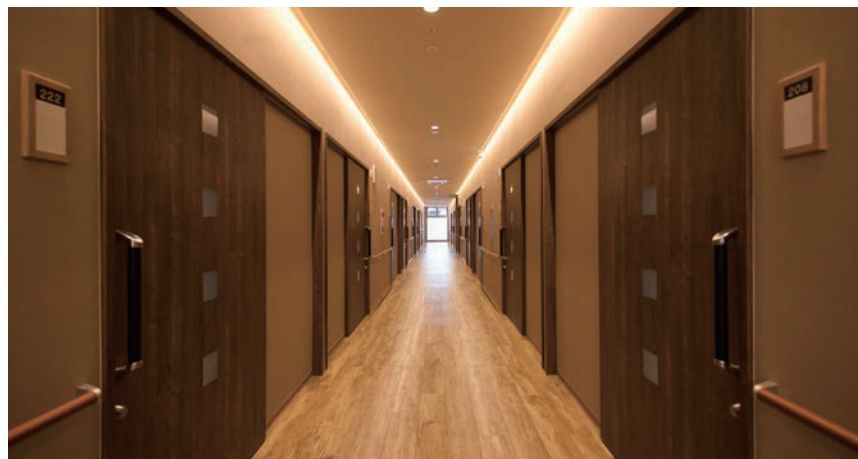
この庭にある庭石や灯籠、樹木のほとんどは、イストワール建設前の屋敷に昔から存在したものです。博物学者の南方熊楠や合気道創始者の植芝盛平らが眠る「高山寺」の庭園を手掛ける庭師さんに設計いただきました。時を経るほど魅力を増す日本庭園になったと思います。

大浴場・小浴場

入浴は楽しみのひとつでもあるので、ゆったりとお湯に浸かってくつろいでいただけるように安全性に重きをおいた作りにしました。滑らないように材質を選び、できるだけ自分で入浴できるように手すりの位置にも配慮しました。介護の必要な方には専用の浴室を設けています。

エントランス

「我が家」を実感いただけるように、エントランスは御屋敷風としました。お孫さんがウキウキしておいちゃん、おばあちゃんに会いに来られた時、味気ない自動ドアでお迎えさせる訳にはいかないと考えたからです。

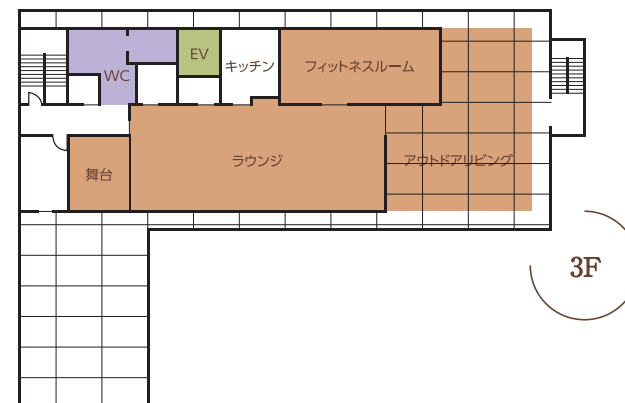


居 室

1階は落ち着きと品のあるダークブラウンを基調とした居室フロアです。四季を感じる庭園がすぐ目の前にあり、気軽に園内を散歩できます。2階はやさしさを感じるカジュアルなカントリー調の居室フロアです。プライバシーを守りつつ、入居者様同士の心地よいコミュニケーションもはかれます。尚、入居者様に自室への愛着を抱いていただけるように、居室毎に壁紙バリエーションを変更しています。ベッドから転落の恐れのある入居者様には、超低床ベッド(※)もご準備しています。



※数に限りがございます。ご相談ください。



アウトドアリビング

田辺旧市街の中心に位置するこの特等席から、皆様の生まれ育った美しい街並や花火大会をご覧いただきたく、当施設は設計されました。このテラスは当施設最大の目玉です。海外リゾート地で採用されている高級屋外家具でおくつろぎください。

フィットネスルーム

紀南地方初導入の動的ストレッチマシンを揃え、転倒時の骨折予防や肩こり、腰痛を和らげていただく事を目的としたフィットネスルームです。

ラウンジ

朝、昼、晩の食事の他、おしゃべりを楽しんだり、読書をしたりとラウンジで過ごす時間が多くなるとい、木のぬくもりと座り心地の良さを一番に考えた飛騨家具で揃えました。

150インチプロジェクター

映画上映や有線放送をお楽しみいただけます。





450余年の歴史ある「田辺祭」 中屋敷イストワールが流鏑馬（やぶさめ）御宿を務めました。

1年の内で最も暑いといわれる7月23日・24日・25日の3日間、450年以上の歴史をもつ「田辺祭」が厳かにおこなわれます。傘鉾が巡行する田辺祭は、2016年10月に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録された、「闘雞神社」の夏祭です。

古文書でみると、紀州藩主浅野幸長（あさのよしなが）、田辺領主が浅野左衛門佐（さへものすけ）の時代であった慶長10年（1605）に、「権現宮祭礼町中改車」、同12年「流鏑馬三騎町より出」という記録があります。また、徳川頼宣（よりのぶ）が藩主になって徳川御三家が成立し、頼宣の附家老であった安藤常刀直次（あんどうたてわきなおつぐ）の領知となったからの寛永10年（1633）には、一時、能の奉納となったようですが、寛文12年（1672）に袋町（福路町）の鉾の台が車となり、翌年の延宝元年には町中の台が車となったという記録があり、この頃には現在の笠鉾の原形ができあがったようです。

すべてのお笠のお勤めが終わった後、流鏑馬行事が始まります。田辺祭の最後を飾る行事です。本殿前に参列した神職・社総代・宿等が鳥居前に移動し、流鏑馬が始まります。乗子3人が3頭の馬に乗り、各1騎ずつ3回、合計9本の射的を行います。夜遅くの行事ですが、多くの見物人が回りをとりまきます。（午後9時30分頃）流鏑馬が終わって、祭は幕を閉じます。

平成29年の田辺祭 流鏑馬の御宿を、イストワールが務めさせていただきました。実は、37年前にも当法人として御宿を

受けたことがあり、今回は2度目のお役目となりました。歴史と文化の香る中屋敷という立地だからこそのお役を賜り、大変ありがたいことでした。イストワール入所者様達も非日常の時を大変喜んでくださり、当法人としまでも充実した輝かしい毎日でした。



1980年7月 上屋敷・外科内科社医院 (旧施設) での流鏑馬御宿の様子

闘雞神社

平安時代に熊野別当湛快（たんかい）が田辺別当家を創立し「熊野坐（くまのにます）大神」を勧請して「新熊野（いまくまの）十二所権現宮」「新熊野社」と呼ばれました。ここへ詣でることで熊野山参詣に替えたといわれています。これが現在の闘雞神社です。田辺の闘雞神社へ詣でただけで引き返す人びともいたといわれています。

田辺祭り 2017

7月23日～25日

流鏑馬御宿 @中屋敷イストワール

